

# 古代ギリシャ思想

## 神話（ミュトス）

- ・ホメロス 主著『オデュッセイア』『イリアス』
- ・ヘシオドス 主著『神統記』

## 自然哲学（ロゴスに基づく観察）

- ・タレス 万物の根源（アルケー）は『水』
- ・ピュタゴラス 万物の根源（アルケー）は『数』
- ・ヘラクレイトス 万物の根源（アルケー）は『火』
- ・デモクリトス 万物の根源（アルケー）は『アトム』
- ・アナクシマン드로ス 万物の根源（アルケー）は『無限なるもの』

## ソフィスト（職業教師；フシスからノモスへの関心の変化；相対主義）

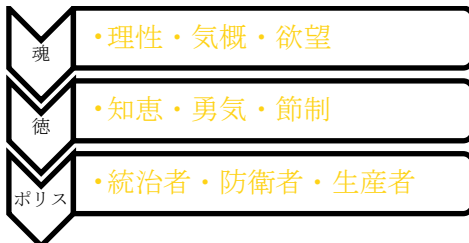
- ・プロタゴラス 「万物の尺度は人間である」
- ・ゴルギアス 不可知論を説く

## ソクラテス

- ・デルフォイの神託から無知の知に気付き、問答法を用いて相手にも自覚させる
- ・徳（アレテー）を知るすなわち魂への配慮で善く生きることができる
- ・知徳合一/知行合一/福徳一致

## プラトン（学校：アカデメイア）

- ・洞窟の比喻で、現実界が不完全であることを説く
- ・イデア界を想起（アナムネーシス）し、あこがれ（エロース）を持つ
- ・イデアは理性によってのみ認識できる
- ・プラトンの四元徳



- ・理想の政治は哲人政治



## 古代インド思想

### バラモン教（アーリア人・多神教・聖典『ヴェーダ』）

- ・四つの身分：バラモン・クシャトリア・ヴァイシヤ・シュードラ
- ・業報輪廻するが、解脱する方法を書いた奥義書『ウパニシャッド』
- ・解脱の方法は、梵我一如の自覚

梵（ブラフマン）：宇宙を支配する万物の根源

我（アートマン）：自分に内在する生命・精神

### ジャイナ教（開祖：ヴァルダマーナ）

- ・カーストの否定と徹底した不殺生

## 原始仏教

- ・四法印：一切皆苦・諸行無常・諸行無我・涅槃寂静
- ・四諦：苦諦・集諦・滅諦・道諦
- ・涅槃にいたるためには八正道
- ・小乗仏教：阿羅漢が理想像・南伝仏教
- ・大乘仏教：菩薩が理想像・六波羅蜜の実践・北伝仏教
- ・大乘經典の作成
  - ・ナーガールジュナ…「空」
  - ・ヴァスヴァンドウ…「唯識」

## ユダヤ教とキリスト教

### ユダヤ教（裁きの神・怒りの神ヤーウエ）

- ・モーセの十戒：宗教的戒律と日常的倫理的戒律
- ・救世主（メシア）が現れるはず
- ・富裕層が多く儀式重視のサドカイ派と律法重視のパリサイ派

### イエスキリスト

- ・律法主義を批判
- ・アガペーにならって隣人愛を実践すれば神の国が到来する

### パウロ

- ・キリストの死を贖罪とした
- ・律法によってではなく信仰によって神に認められるという信仰義認論を提唱
- ・パウロの三元徳：信仰・希望・愛

### アウグスティヌス（主著：『神の国』『告白』）

- ・プラトン哲学を適用し教父哲学を確立
- ・神・イエス・精霊が本来一つのものだという三位一体論を提唱
- ・自由意思は悪をなすものであり、人間は恩寵によってのみ救済される

### トマス・アキナス（主著：『神学大全』）

- ・アリストテレス哲学とキリスト教を調和させてスコラ哲学を大成

### イスラム教

- ・コーランは天使ガブリエルを通じてムハンマドに啓示されたもの
- ・偶像崇拜を禁止
- ・ムハンマドはウンマを形成しジハードを指揮した
- ・イスラム法（シャリーア）
- ・六信 神・天使・聖典・預言者・来世・天命への信仰
- ・五行 信仰告白

礼拝 1日5回メッカに向かって行う

断食 ラマダーンの月の日中に断食する

喜捨

巡礼

## 中国思想

孔子	孟子	荀子
仁と礼を重視  修己治人が理想像  政治観は徳治主義	仁と義を重視 性善説を唱える 大丈夫が理想像 (四端説・浩然の気) 政治観は王道政治 (霸道政治を否定) 易姓革命を認めた	礼を重視 性悪説を唱える   礼治主義を主張

### 孔子の仁の現れ方

- ・忠…自分を欺かない
- ・恕…思いやり
- ・孝…親に尽くす
- ・悌…兄弟間の愛情
- ・信…他人を欺かない

### 孟子の四端説

- ・惻隠の心→仁 羞惡の心→義 辞讓の心→礼 是非の心→智
- ・五倫…父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信

朱子学	陽明学
理気二元論	理一元論
性即理	心即理
格物致知	致良知
居敬窮理	知行合一
禁欲と学問が必要	実践と善悪判断が必要

### 墨家

- ・儒家の仁を別愛として批判し、兼愛を重視
- ・非攻と節用

### 老荘思想

- ・老子 道を重視・無為自然が理想・水のような生き方である柔弱謙下が理想

国家としては小国寡民が理想

・ 莊子 心齋坐忘し、逍遙遊を達成した真人が理想・ 万物斉同を主張

## 近代西洋思想

### ルネサンス

- ・ **アルベルティ** 万能人の一人・「人は欲しささえすれば自分の力で何でもできる」
- ・ **ダンテ** 聖職者を批判・『神曲』
- ・ **マキャヴェリ** 『君主論』で「ライオンの強さと狐のずる賢さを」と説く
- ・ **エラスムス** 『愚神札賛』・人間は自由意志を持つ・ルターと論争
- ・ **ピコデラミランドラ** 『人間の尊厳について』で自由意志を主張
- ・ **ミケランジェロ** 『ダビデ像』『最後の審判』などの作品
- ・ **ラファエロ** 『アテネの学堂』等の作品
- ・ **ボッカチオ** 『デカメロン』でキリスト教批判
- ・ **トマスモア** 『ユートピア』で私有財産制の無い社会を描いた

### ルターの宗教改革

- ・ 人間の **自由意思** を否定
- ・ 教会の免罪符を批判し、教会の扉に **95カ条の提題** を掲示した
- ・ パウロから得た根本思想である **信仰義認論**
- ・ 「**聖書中心主義**」「**万人司祭主義**」「**職業召命観**」

### カルヴァン

- ・ 『**予定説**』 人間は神の栄光を表す道具でしか無い
- ・ **職業召命観** 勤勉かつ**禁欲的**に働き得た**利潤**は**神聖**なもの
- ・ **マックス・ウェーバー**は、カルヴァン主義と資本主義の関係を説明

### モラリスト

- ・ **モンテーニュ** 「**ク・セ・ジュ**」**懐疑**の精神と**寛容**の精神
- ・ **パスカル** 「人間は考える葦である」  
「人間は**悲惨**さと**偉大**さの両面を持つ**中間者**である」  
反省の無い**気晴らし**状態から救うには  
**幾何学的精神**だけでなく**キリスト教的愛**や**繊細の精神**が要る

## 科学思想

### パラダイムの転換（目的論的自然観から機械論的自然観への転換）

- ・ **プトレマイオス**            目的論的自然観・天動説の大成
- ・ **ガリレイ**                主著『天文対話』「宇宙は数学で書かれている」
- ・ **コペルニクス**            ガリレイより前に地動説を提唱
- ・ **ブルーノ**                 地動説を支持し、火刑に処せられる
- ・ **ニュートン**              万有引力・主著『プリンキピア』

### イギリス経験論

名前	ベーコン	ロック	ヒューム
主著	『ノヴム・オルガヌム』	『人間悟性論』	『人性論』
提唱	帰納法	タブラ・ラサ	懐疑論
備考	・「知は力なり」 ・イドラの排除	・生得観念の否定	経験を否定

### 大陸合理論

- ・ **デカルト**            主著『方法叙説』・良識（ボンサンス）は最も公平に分配  
方法的懐疑を用いた結果「コギト・エルゴ・スム」  
精神（思惟）と物体（延長）を区別する物心二元論を説く
- ・ **デカルトによる方法**  
1. 明証 2.分析 3.総合 4.枚举
- ・ 理性で情念をコントロールしようとする **高邁の精神**
- ・ 道徳を確立するまでは **仮の道徳** に従え
- ・ **スピノザ**            デカルト批判をした・主著『エチカ』・神即自然を唱えた
- ・ **神への知的愛**      事物の必然性を永遠の相の下に理解
- ・ **ライプニッツ**      モナド論を提唱・アトムと違って広がりを持たない
- ・ **予定調和**            個々の社会的関係は神によって定められている



# 市民革命と思想

## 社会契約説

- ・グロチウス 近代自然法の父。主著『戦争と平和の法』
- ・ホブズ 『リヴァイアサン』・共通の力（コモンパワー）・自己保存権
- ・ロック 『市民政府二論（統治論）』
- ・ルソー 『社会契約論』『エミール』・一般意志への絶対的服従

## 啓蒙思想（不合理な伝統・慣習からの脱却）

- ・モンテスキュー 『法の精神』で三権分立を説く
- ・ヴォルテール 『哲学書簡』・自由と寛容・伝統的偏見を攻撃
- ・ディドロ ダランベールと共に、『百科全書』編集の中心人物
- ・カント 『啓蒙とは、精神の未成年状態から脱却することである』

## 実証主義

- ・コント 社会学の創始者・経験的事実のみを重視・社会有機体説  
人類の知識：神学的段階→形而上学的段階→実証的段階
- ・ダーウィン 進化論・『種の起源』
- ・スペンサー ダーウィンの論を応用して、社会進化論を提唱

## 功利主義

- ・アダムスミス ホモ・エコノミクスを構成単位とする社会  
公平な第三者の共感に基づく道徳
- ・ベンサム 量的功利主義・快樂計算が可能・「最大多数の最大幸福」  
外的制裁：{物理的・道徳的・宗教的・法律的} 制裁
- ・J.S.ミル 質的功利主義「満足した愚者より不満足なソクラテスの方」  
良心の内的制裁の重視・思想および言論の自由を擁護

## ドイツ観念論

- ・カント哲学 批判哲学で、経験論と合理論を総合し、対象が人間に従うという  
認識論のコペルニクスの転回を果たす  
「人間は何を知りうるか」→純粹・理論理性  
「人間は何をなすべきか」→実践理性  
道徳法則：格率が常に同時に普遍的立法の原理として妥当

道德法則：定言命法が望ましく、仮言命法は望ましくない

義務：適法性より道徳性・結果より動機を重視

自由：自律した意志

善意志：道德法則によってのみ意志が規定される

目的の王国：人格に存在する人間性は目的として使用すべき

永久平和のために：国際的平和機構の設置を提案

・ヘーゲル

「世界史は自由の意識における進歩である」（絶対精神の働き）

人倫：法と道徳の弁証法的な統一

最高の人倫：家族と市民社会の弁証法的統一

## 現代思想

### 実存主義（本質に対して実存を重視）

- ・キルケゴール 主体的真理の追究  
実存の三段階：美的→倫理的→宗教的  
神とつながる「単独者・例外者」・つながらない「死に至る病」
- ・ニーチェ ルサンチマンから生まれた奴隷道徳であるキリスト教道徳  
→神にすがろうとする境地：受動的ニヒリズム  
虚無感を乗り越える境地：超人が実現する能動的ニヒリズム  
神は死んだ⇒永劫回帰・運命愛を持って生きるべき  
『ツァラトウストラはかく語りき』
- ・ヤスパース 限界状況において自己の有限性を自覚し、包括者（超越者）の存在に気づく  
実存的な交わり：愛しながらの闘いを通して実存を明らかに
- ・ハイデガー 『存在と時間』  
人間は本来自己の存在の意味を問う現存在（ダーザイン）であるが、ひと（ダスマン）となってしまう。良心の声によって死への存在であることを自覚
- ・サルトル 『存在と無』「実存は本質に先立つ」無神論的実存主義  
人間は創造的自由「人間は自由という刑に処せられている」  
積極的な社会参加をするアンガージュマンの提唱  
モノは即自存在（安定）；ヒトは対自存在（不安定）

## 社会主義

（空想的社会主義）（エンゲルス提唱）

- ・サン・シモン 産業者の自主的管理→搾取のない理想社会
- ・フーリエ 農業を基礎とするファランジュの複合体→世界連盟
- ・オーウェン 環境改善・教育普及  
ニューラナーク紡績工場・ニューハーモニー村

（科学的社会主義）マルクス/エンゲルス

- ・人間疎外論 {生産物, 労働, 類的存在} からの疎外・労働力の商品化

- ・唯物史観 上部構造は下部構造（生産力と生産関係）に規定される（その他社会主義）
- ・ベルンシュタイン 社会民主主義（修正マルクス主義）を提唱  
労働者階級が議会を占め漸進的社会改良・暴力革命の否定
- ・レーニン ロシア革命の主導者『帝国主義論』帝国主義に対して暴力革命
- ・ラッサール 暴力革命やプロレタリアート独裁に反対・夜警国家の批判
- ・ウェッブ夫妻/バーナード・ショー  
フェビアン協会会員・議会を通じて社会主義の達成を目指す

## プラグマティズム

- ・パース プラグマティズムの創始者『概念を明晰にする方法』  
行動主義「概念の真偽は行動で決まる」
- ・ジェームズ プラグマティズムの普及者『プラグマティズム』  
実用主義「役に立つものは真理」
- ・デューイ プラグマティズムの大成者『哲学の改造』  
道具主義「知識は道具」教育改革で民主主義の実現を

## その他現代思想

（フランクフルト学派）

- ・ホルクハイマー 『批判的理論』・技術的合理性、道具的理性に対する批判
- ・アドルノ 『権威主義的パーソナリティ』
- ・マルクーゼ 現代の管理社会を批判・画一化された人間：一次元的人間
- ・ベンヤミン 複製技術が芸術作品のオーラを奪ったと主張
- ・ハーバーマス 対話的理性に基づくコミュニケーションを重視

（構造主義）

- ・ソシュール 共時言語学を提唱・パロール：ラングによって成立する会話
- ・レヴィ・ストロース 『野生の思考』あらゆる社会に普遍的な構造の発見
- ・フーコー 『狂気の歴史』理性的主体という人間観は普遍でない

- ・レヴィナス 『全体性と無限』・他者への無限の責任を持つことで主体性を
- ・ウィトゲンシュタイン 『論理哲学論考』言語分析を通じた分析哲学の構築

- ・ロマンロラン 絶対平和主義・戦闘的ヒューマニズム
- ・アインシュタイン, ラッセル パグウォッシュ会議
- ・シュヴァイツァー 『生命への畏敬』
- ・ロールズ 『正義論』 公正としての正義を説く  
恵まれない人が有利になる場合のみ権利の不平等は可
- ・アマルティア・セン 潜在能力（ケイパビリティ）を等しく保障せよ
- ・トルストイ 『戦争と平和』 キリスト教的隣人愛に基づき非暴力主義を
- ・ハンナアーレント 全体主義への批判・自由な行為の検討
- ・ドストエフスキー 『死の家の記録』
- ・ショーペンハウアー ペシミズムを説く・人生は振り子運動

# 日本思想

## 古代思想

- ・ **アニミズム**（精霊信仰）神秘的な力を**カミ**として神格化し、「**八百万の神**」
- ・ **古事記**によれば、**イザナギノミコト**と**イザナミノミコト**が**国土**や**神々**を生んだ
- ・ **太陽**を神格化した最高神「**天照大神（アマテラスオオミカミ）**」
- ・ **スサノオノミコト**は**天岩戸（アマノイワト）**事件を起こして追放
- ・ 神々が住んでいるとされる世界「**高天原（タカマガハラ）**」（**天上**）
- ・ 人間の住む世界「**葦原中国（アシハラノナカツクニ）**」（**地上**）
- ・ 死者の世界「**黄泉国（ヨミノクニ）**」（**地下**）
- ・ **現世中心主義**・ **共同体の和**を重視
- ・ 共同体に災いをもたらす行為「**ツミ**」病、死「**ケガレ**」
- ・ 水で洗い流す「**ミソギ**」・ 儀式で除去する「**ハライ**」
- ・ 神の怒りを鎮めるための「**マツリ**」
- ・ 呪術師等が超自然的存在と交流して占う宗教「**シャーマニズム**」
- ・ 祭祀の場では**清明心**が重んじられた

## 聖徳太子と仏教

- ・ 十七条の憲法
  - （一条） **和**をもって貴しとなし、忤ことなきを宗とせよ
  - （二条） 篤く**三宝**を敬へ、三法とは**仏法僧**なり
  - （十条） **我必ず聖に非ず、彼必ず愚かに非ず、共にこれ凡夫のみ**
- ・ 「**世間虚仮、唯仏是真**」この世は等しく仮のものでただ**仏の世界のみが真実**
- ・ 『**三経義疏（さんぎょうぎしょ）**』**維摩経**・**勝鬘経**・**法華経**の注釈書

## 奈良仏教（最大の特徴：**鎮護国家**・**現世利益**の重視）

- ・ **南都六宗**を中心に**学問仏教**としての性質が色濃い
- ・ 僧侶活動は国家の統制下にあったため、**私度僧**は迫害された
- ・ **鑑真**によって**東大寺**に**戒壇**が設けられ、**受戒制度**が確立
- ・ **行基** **私度僧**を率いて朝廷から弾圧されたが、後に**大仏造立**に協力した

## 平安仏教

- ・ 天台宗 全ての人が**仏性**を持ち**成仏**できる

一乗思想・一切衆生悉有仏性

- ・真言宗 密教を最高の教えとする  
顕教は釈迦を通じた間接的な教え  
密教は大日如来からの直接の教え  
密行（身・口・意）（加持祈祷）を実践することで、仏になるという教え：即身成仏を説く
- ・修験道 日本古来の山岳信仰は仏教密教の影響を受けて形成
- ・本地垂迹説 神は仏が姿を変えて現れたとする権現思想
- ・反本地垂迹説 神国思想・元寇後に生まれた

### 末法思想と鎌倉仏教

- ・正法（教・行・証）→像法（教・行）→末法（教）
- ・『往生要集』を著した源信は、末法思想と浄土信仰を広めた
- ・空也は、諸国を遊行し、阿弥陀聖・市聖と呼ばれた
- ・一遍は、踊念仏を広めて、遊行上人・捨聖と呼ばれた
- ・浄土宗 ただひたすら念仏を唱える専修（せんじゅ）念仏を提唱  
修業は無意味であり、弥陀の本願で救われる：他力本願
- ・浄土真宗 絶対他力を説く  
善人なおもて往生をとく、いはんや悪人をや：悪人正機  
全てを阿弥陀仏の計らいに任せること：自然法爾
- ・臨済宗 開祖：栄西  
自力の修行を肯定・末法思想を否定  
座禅をしながら公案を解いていく看話禅を重視
- ・曹洞宗 開祖：道元  
自力の修行を肯定・末法思想を否定  
黙照禅を重視「人々はみな仏法の器なり」  
只管打座→身心放下によって身心脱落の境地  
修証一等「座禅そのものが悟り」
- ・法華宗 四箇格言 {念仏無間・禅天魔・真言亡国・律国賊}

## 江戸時代前後の思想

(朱子学) 封建的身分制度を説くため江戸幕府から重用される

- ・ 藤原惺窩 仏教は人倫の道を軽視すると言って俗世へ戻った
- ・ 林羅山 上下定分の理：身分差別を正当化している  
理によって気を抑える心：敬
- ・ 山崎闇斎 垂加神道：天皇は天帝現人神であり敬うことで心も世も治まる  
人には大義名分がある
- ・ 雨森芳洲 朝鮮語に通じ朝鮮との外交を担当・異文化理解を説く
- ・ 新井白石 『西洋紀聞』・文治政治の推進
- ・ 貝原益軒 『女大学』三従の倫理を重視

(陽明学) 形式よりも内面を重視

- ・ 中江藤樹 『翁問答』・孝の本質は愛敬・時処位の重視  
良知は行為によってのみ真の知となる知行合一を重視
- ・ 熊沢蕃山 中江藤樹と同じ
- ・ 大塩平八郎 大坂町奉行の役人

(古学)

- ・ 山鹿素行 古学の提唱・朱子学兵学の批判  
農工商（三民）の道徳的手本とあるべき、という士道を説く
- ・ 伊藤仁斎 古義学の提唱・『論語』を最上至極宇宙第一の書とする  
仁愛の根底にある誠を説く・誠のためには忠信が必要
- ・ 荻生徂徠 古文辞学を提唱・個人の道徳よりも治術を重視  
先王の道は安天下の道・礼楽刑政の目的は経世済民

- ・ 山本常朝 『葉隠』「武士道といふは死ぬことと見つけたり」

(国学)

- ・ 賀茂真淵 『万葉集』の研究→高く直き心・ますらおぶりを重視  
からくにぶりを批判：儒教や仏教で日本固有の精神が失われた
- ・ 本居宣長 『古事記』の研究→かんながらの道  
『源氏物語』の研究→もののあはれ  
『古今集』『新古今集』の研究→たをやめぶりを評価



漢意（からごころ）の排斥と真心の重視

- ・ 契沖 もともと真言宗の僧・『万葉集』を研究
- ・ 荷田春満 契沖に傾倒、伊藤仁斎に学び、賀茂真淵を教えた
- ・ 平田篤胤 国学を宗教化し、天皇への服従こそ神の道と説く「復古神道」  
(神道)
- ・ 国家神道 明治政府によるもの
- ・ 伊勢神道 神仏習合・反本地垂迹説・渡会家行が大成
- ・ 垂加神道 神儒融合・天皇崇拜・山崎闇斎が提唱
- ・ 吉田神道 儒仏道習合・反本地垂迹説・吉田兼俱が提唱
- ・ 復古神道 儒仏排斥・本居宣長・平田篤胤が提唱  
(民衆の思想)
- ・ 石田梅岩 石門心学：儒教・仏教・神道を融合・庶民の道徳を説く  
正直と儉約：「実の商人は、先も立ち、我も立つことを思ふ」  
知足安分：「各人は足るを知って分に安ぜよ」  
利益の正当化：「商人の買利は士の禄に同じ」
- ・ 安藤昌益 万人直耕を提唱・自然世が理想  
不耕貪食の徒を批判して法世を否定
- ・ 二宮尊徳 天道と人道 {分度・推譲}・報徳思想
- ・ 井原西鶴 浮世草子の作家
- ・ 近松門左衛門 浄瑠璃・歌舞伎の脚本作家
- ・ 佐久間象山 和魂洋才：「東洋道徳、西洋芸術」
- ・ 横井小楠 「堯舜孔子の道を明らかにし、西洋機械の術を尽くす」
- ・ 杉田玄白・前野良沢 『ターヘル・アナトミア』を翻訳し、解体新書を出版
- ・ 緒方洪庵 適塾を開く
- ・ 高野長英・渡辺崋山 鎖国批判・蛮社の獄で弾圧
- ・ 吉田松陰 一君万民の思想・松下村塾を開く・安政の大獄で刑死

## 近代思想

(西洋思想の受容)

- ・ 福澤諭吉 日本には実学と独立心が無く、日本文明は半開状態

特に**数理学**が必要で、これによって**独立自尊**する

「一身独立して一国独立す」・富国強兵策の支持・脱亜論

天賦人權（自然権思想）・両性の平等

- ・森有礼 明六社の設立に関与・初代文部大臣・学校令の制定・契約結婚
- ・中村正直 明六社に参加・ミルの功利主義を紹介・自助の精神を説く
- ・西周 明六社に参加・コントやミルやカントを紹介・哲学用語の考案
- ・津田真道 明六社に参加・立法に尽力
- ・加藤弘之 明六社に参加・天賦人權説を主張・進化論→国権論

(自由民権思想)

- ・中江兆民 『民約訳解』の出版・恩賜的民権を回復的民権に変えていこう
- ・植木枝盛 ロックの思想に基づき幕藩政治を批判  
『東洋大日本国国憲按』私擬憲法を発表

(欧化主義への反動)

- ・岡倉天心 英文で『茶の本』を著す・「アジアは一つ」
- ・西村茂樹 『日本道徳論』・「国民道徳」の普及
- ・徳富蘇峰 平民主義を唱えるが、日清戦争後に国家主義・皇室中心主義へ
- ・三宅雪嶺・志賀重昂 雑誌『日本人』発行・国粹主義を提唱
- ・陸羯南 新聞『日本』発行・国民主義を提唱
- ・井上哲次郎 天皇制に基づく国家主義・キリスト教の排撃

(キリスト教の受容)

- ・内村鑑三 2つのJに生涯を捧げる・武士道的愛国心に基づくキリスト教  
無教会主義・不敬事件を起こす・日露戦争の際の非戦論
- ・新渡戸稲造 「太平洋の橋とならん」・『武士道』・国際連盟事務次長
- ・新島襄 平民主義・共和主義・同志社の設立
- ・植村正久 教会建設と東京神学社の創設

(社会主義)

- ・幸徳秋水 無政府主義者
- ・堺利彦 平民社創設・『平民新聞』発行・日本共産党の創立
- ・木下尚江 反戦小説『火の柱』

- ・片山潜 キリスト教の立場からの社会主義・労組結成・秋水らと対立
  - ・河上肇 マルクス主義の把握・『貧乏物語』の新聞連載
  - ・安部磯雄 日本フェビアン協会会長・早稲田大学野球部創設
- (その他政治思想)
- ・吉野作造 天皇主権を前提に民意を尊重する民本主義を説く
  - ・平塚らいてう 『青鞥』で「元始女性は太陽であった」と述べる・青鞥社創設
  - ・岸田俊子・景山英子 男女同権を求めた
  - ・美濃部達吉 天皇機関説
  - ・北一輝 国家社会主義者・『日本改造法案大綱』・二・二六事件の首謀者
  - ・石橋湛山 『大日本主義の幻想』・国際協調や言論の自由を強調
  - ・丸山眞男 『超国家主義の論理と心理』・自主独立の精神を持って主張
- (近代的自我の形成)
- ・夏目漱石 内発的開化を重視し、外発的開化の脱却を目指す  
自己本位：個人主義を重視・倫理的自我とエゴイズムの葛藤  
晩年には則天去私の境地に
  - ・森鷗外 自己の運命を引きうけつつも埋没しないようにする諦念
  - ・島崎藤村 自然主義（ありのまま）・被差別部落を題材にした『破戒』
  - ・北村透谷 ロマン主義（感情を重視）・実世界に抗して想世界を描く
  - ・与謝野晶子 『みだれ髪』
  - ・武者小路実篤 白樺派（理想主義・人道主義）・人間性信頼・新しき村の試み
  - ・石川啄木 国家権力を批判・社会問題への関心を高める
- (独創的思想)
- ・西田幾多郎 純粹経験：主客未分の直接的経験によって真の实在を意識  
禅の悟りの境地に例えて、善と考えた
  - ・和辻哲郎 人間は個人と社会の弁証法的統一体である間柄的存在である  
人間の学としての倫理学を提唱・『風土一人間学的考察』
  - ・鈴木大拙 仏教思想家・日本文化と仏教・禅思想を世界に紹介
  - ・柳田国男 日本民俗学の開拓者・常民の生活を研究  
祖先崇拜：死者は近くの山にとどまり、一定期間後に神になる

- ・ 柳宗悦 無名の職人による日常雑器に美を見いだす・「民芸」
- ・ 折口信夫 異郷から不意に村を訪れ幸福を与えて帰る客人（まれびと）
- ・ 南方熊楠 神社合祀令に反対・鎮守の森の伐採に反対
- ・ 石牟礼道子 聞き書きという手法で水俣病を告発・自然との共生を訴える